

事業実績書

団体名	吉敷地区地域づくり協議会
-----	--------------

1 地域づくりの活動方針(テーマ)

吉敷地域のテーマである「笑顔あふれるふれあいのまち」の実現に向け、平成27年度に再編した地域づくり関係団体や特別委員会とも連携を図りながら、地域課題の解決のための事業を実施しました。

平成28年度は、交流事業に力を入れ、これからの地域づくり活動を担う人材を広く発掘することに努めました。また、防災検討委員会や地区防災会と、各町内会・自治会から選出された連絡員との連携を図りながら、地域防災への取り組みを進めました。さらに、特別委員会として設置している「吉敷ふるさと文化振興委員会」により、地域散策ガイドブック「吉敷さんぽ」を刊行し、良城小学校などに寄贈するほか、吉敷や近隣地域の病院やデイサービス事業所などに配架して、多くの方に読んでいただき、吉敷地域の自然や文化の魅力を再発見・再認識していただく取り組みを進めました。

2 今年度、重点的に取り組んだ視点(事業)

①	視点	吉敷の宝「吉敷さんぽ」の紹介と冊子の製作		
	事業名	ふるさと伝承事業	決算額	854,000円
②	視点	地区内の人材発掘のための交流事業の開催		
	事業名	交流事業、ふれあいスポーツ交流事業	決算額	交流事業:29,269円 ふれあいスポーツ事業:80,562円
③	視点	祭りを企画・運営する実行委員会の新たな委員の発掘により、担い手のバトンタッチができるように新旧役員の交流を図るとともに、参加者同士も交流が盛んになる企画を実行委員と検討します。		
	事業名	コミュニティ活性化事業	決算額	711,557円

3 今年度の重点的視点(事業)に対する評価

検証(成果、来年度以降への改善点等)	自己評価
①多くの方々に吉敷地域を散策していただき、吉敷の自然や文化の魅力を再認識・再発見していただくために刊行した地域散策ガイドブック「吉敷さんぽ」は、良城小学校の児童から寄せられた1,200件を超す「吉敷のお宝」の情報をベースに、委員が3年の月日をかけ、文献などにより調査しながら編集しました。今後、良城小学校における「ふるさと学習」への活用をはじめ、地域における地域散策イベントや郷土学習講座の開催などへ広く活用していきます。	◎
②地域づくりの人材を広く掘り起こすための取り組みとして、地域住民が交流できる運動会や交流事業を計画しました。運動会は、天候や熊本地震を考慮し中止としました。2年前から地域交流センターと共催により開催している交流事業は、今年度、新たに対象を「若者」と「アクティブエイジ」とに分け、地域づくり協議会と地域交流センターとがそれぞれ担当を持ち、企画の段階からお互い連携しながら進めました。具体的に多くの住民を巻き込む事業の組み立てには至っていませんが、地域住民の参画を得ながら話し合いの場を持ち、新たな人材を掘り起こすきっかけづくりができ、今後も継続した取り組みを行っていきます。	○
③新旧実行委員の引継ぎを行いながら進めてきた実行委員会も2年目に入り、委員同士の関わりも深まっています。夏まつりやふるさとまつりのそれぞれの行事の由来に基づき、新たな企画も取り入れながら祭りを開催しました。今後も、地域住民が新たな実行委員として気軽に参画できる実行委員会となるよう、楽しく活動を進めていきます。	◎

◎(大変よくできた) ○(概ねできた) △(課題が残った) ×(全く出来なかった)

4 総括

専門部会に代わる地域づくりに取り組む組織を立ち上げ、それぞれの体制強化を図りながら、地域課題の解決に向けた事業に取り組み、約2年が経過しました。その中でも、地域住民と地域づくり関係団体等から委員を出し合い広報委員会を設立し、地域広報紙やウェブサイトの充実に取り組み、地域住民からは一定の評価が得られています。今後、町内会・自治会未加入者にも広報紙を見ていただけるよう、配布先の拡大などを検討していきます。また、報道等でも紹介された地域散策ガイドブック「吉敷さんぽ」については、遠方からも問い合わせがあるなど好評を得ています。

5 事業内容

(1) 協議会運営

事業費	8,273,051円(交付金5,092,792円)
事務局の運営体制	(事務員等の雇用人数) 事務局長1名 事務員4名 (運営費の主な内容) 事務局人件費、事務費 (成果・評価) 今年度は事務局員の交代が多く、5人での運営が難しい時期が度々ありました。特に、吉敷地域は、地域づくり協議会業務をはじめ、自治会業務、地区社協業務、地域交流センター地域担当窓口業務補助を5人体制で担っており、多岐にわたる業務をそれぞれが担当を決め分担していますが、前述の理由のため事務局員は慌ただしい一年を過ごすことになりました。しかしながら、日頃から地域交流センター職員と連携して業務を進めており、地域交流センターからも一定の事務局の運営支援は得られています。 (今後に向けて) 多様な業務に事務局5人体制で対応していくため、効率的な業務の遂行に向け、業務の棲み分けや事務分担の見直しなどに取り組むとともに、各団体や地域交流センターとも連携しながら、地域づくり活動や地域福祉活動などを支えています。年々、業務量が増えていることから、事務局業務の負担を軽減するため、引き続き、各団体の役員はもとより、地域交流センターとも協議しながら、事務局運営を行っていきます。

(2) 地域振興

事業名	ふれあいあいさつ運動
事業費	5,000円(交付金4,924円)
事業概要	(実施内容) 吉敷ふるさとまつりにおいて応募のあった標語の中から、選出された作品を地域広報紙に掲載し、あいさつ運動を啓発しました。 (実施時期) 通年 (参加人数) 2,000人 (成果) ふるさとまつりで「ふれあい標語」を募集し、地域広報紙「ふるさとだより よしき」で紹介するなど、ふれあいあいさつ運動に取り組みました。 (評価) 年間を通して、ふれあいあいさつ運動ができました。 (今後に向けて) 標語の取り組みを継続するとともに、課題となっている若い人でも着用しやすい「あいさつ帽子」についても検討していきます。

事業名	地域情報発信事業
事業費	311,924円(交付金311,924円)
事業概要	(実施内容) 地域づくり協議会活動や、地域の様々な情報などを紹介するウェブサイトの充実を図りました。また、良城小学校と連携して、セーフティネットワークによる子どもたちの見守り活動を実施しました。 (実施時期) 通年 (参加人数) 650人 (成果) 再構築したウェブサイト、様々な地域情報を掲載しました。セーフティネットワークを活用して、交通安全・防犯対策協議会による下校時に合わせた青パト活動情報を流すなど、地域で子どもたちの見守りができました。 (評価) ウェブサイトやメール配信による情報発信に取り組み、一定の評価は得られていると考えていますが、これらのさらなる活用について工夫、検討する必要があります。 (今後に向けて) ウェブサイトの充実などと合わせて、セーフティネットワーク協議会がメール配信のみの活動となっているため、組織の在り方も含めて再構築に取り組んでいきます。

事業名	成人式思い出づくり
事業費	171,000円(交付金171,000円)
事業概要	(実施内容) 成人式の記念写真を装飾し、地域の新成人をお祝いしました。 (実施時期) 1月～2月 (参加人数) 100人 (成果) 新成人やご家族にも喜んでいただき、よい記念になりました。 (評価) 事業が地域に浸透し、新成人の家族からは楽しみにされているという意見が聞かれます。 (今後に向けて) 引き続き事業を実施していきます。

事業名	交流事業・地域づくり講演会
事業費	129,269円(交付金129,269円)
事業概要	(実施内容) 地域の人材発掘のため、地域交流センターと共催で実施する交流事業を、今年度は地域づくり協議会はアクティブエイジを対象に、地域交流センターは若者を対象に、それぞれが担当を持ち、参加者との交流を図りました。さらに、地域づくり活動計画策定に向け、地域づくりとは何か、地域課題の解決に必要なことは何かを知るために、また、地域住民の交流を目的として、高崎経済大学の櫻井教授を講師に、地域づくり講演会を開催しました。 (実施時期) 12月、1月、2月、3月 (参加人数) 160人 (成果) 2年前から実施していた交流事業ですが、今年度は地域づくり協議会と地域交流センターがそれぞれ担当を持つことにより、打ち合わせなどに多くの時間を費やし、具体的な事業化までには至りませんでした。一方、その打ち合わせに参画していただいた地域住民の方々と、地域づくり協議会や地域交流センターとの交流はできました。 (評価) 地域づくりを進めていくには、新たな人材を知ることが重要であり、そのきっかけとなる「交流事業」は地域づくりの中心的事業の一つですが、残念ながら具体的な事業化まで行きつかなかったことは、事業の組み立て方を含め反省する材料となります。なお、地域づくり協議会と地域交流センターが連携しながら事業を進めていく取り組みは、吉敷地域の強みとして捉えています。地域づくり講演会で「地域づくりは自分たちの地域を自分たちの思いを持ってつくりあげていくもの」という原点を振り返ることができ、計画策定に向け機運の醸成になりました。 (今後に向けて) 引き続き地域交流センターと連携しながら、具体的な事業化を進めていきます。

(3) 地域福祉

事業名	ふれあいスポーツ交流事業
事業費	80,562円(交付金80,562円)
事業概要	(実施内容) 暴風雨や熊本地震を考慮し、大運動会は中止としました。親睦やふれあいを目的とした地区親睦ゴルフ大会や多世代交流グラウンドゴルフ大会は実施することができました。 (実施時期) 11月・3月 (参加人数) 150人 (成果) 親睦ゴルフ大会は、実行委員会が中心となり呼びかけを行うなど、新しい参加者の顔も見えるようになっていきます。また、グラウンドゴルフ大会では、大人と子どもがペアを組み、地域独自のルールで楽しみながらプレイすることで、多世代間の交流が深まりました。 (評価) 従来の町内対抗のスポーツ大会への参加が困難な人でも気軽に参加できるグラウンドゴルフなどの大会を開催することで、新たな参加者も増えてきており、多世代による交流を目的にした地域のスポーツ振興にも繋がっています。 (今後に向けて) 参加町内が減少する傾向にあるため、運営を担う体育振興会により参加しやすい種目を検討するなど工夫した大運動会は、次年度に向け準備を進めていきます。

(4) 安心・安全

事業名	自主防災組織づくり
事業費	82,160円(交付金82,160円)
事業概要	(実施内容) 防災検討委員会により、8月には地域内の危険箇所を確認する初めての図上訓練を実施するとともに、3月には広く地域防災に関して話を聞くため、いわくに消防防災センターの岩国市防災学習館に研修に行きました。また、ふるさとまつりの会場において、防災グッズの展示や、様々な災害時の現状写真などの掲示による啓発に努めました。 (実施時期) 8月・3月 (参加人数) 80人 (成果) 地区防災会から選出された広報委員により、防災に関する活動内容を詳しく紹介しており、地域住民に自主防災の必要性を伝えてきました。防災に関する地域内の主要な団体をはじめ、地域防災に見識を有する方々の参画による防災検討委員会により、8月には初めて図上訓練が実施され、各地区の危険箇所の確認ができました。また、3月には岩国市にある「いわくに消防防災センター」を視察することにより、単位町内会・自治会ごとの自主防災組織立ち上げの必要性の確認ができました。 (評価) 地域住民に対して、防災意識の高揚、防災知識の普及・啓発への基礎固めをした昨年度に対し、今年度は、具体的な図上訓練ができたことは、まずは防災検討委員会委員の意識に変化が起きたものと思われます。 (今後に向けて) 地域が求める地域防災の形を作り上げていくため、防災検討委員会に防災士を中心とした具体的な議論を継続して行っていく幹事会を設けるなどの取り組みが必要です。

(5) 環境づくり

事業名	土木工事
事業費	1,723,000円(交付金1,723,000円)
事業概要	(実施内容) 8箇所の法定外公共物の整備を実施しました。 (実施時期) 6月～3月 (参加人数) 50人 (成果) 各地区の環境整備が進みました。 (評価) 昨年度に引き続き、地域で審査会を開催しながら、各町内会・自治会を通じて要望のあった箇所についての現地確認を行い、優先順位等について協議しながら補助金交付手続きを行いました。 (今後に向けて) 各町内会・自治会で取りまとめられた吉敷地域内の要望を、地域に住む地域づくり協議会関係者で審査会を開催し、総合的に判断しながら取捨選択していくことが難しいことから、次年度は市補助金制度へ移行します。

事業名	カーブミラーの充実
事業費	297,000円(交付金297,000円)
事業概要	(実施内容) 8箇所のカーブミラーの新設・補修に対して補助しました。 (実施時期) 7月・10月・1月・2月 (参加人数) 15人 (成果) 各町内会・自治会からの要望により実施し、安全対策が充実しました。 (評価) 見通しの悪い交差点での事故防止に寄与できました。 (今後に向けて) 各町内会・自治会へ補助制度を周知して、要望を把握していきます。

事業名	交通安全施設の充実
事業費	180,624円(交付金180,624円)
事業概要	(実施内容) 2件の交通安全施設の新設に補助しました。また、ゾーン30の啓発を行いました。 (実施時期) 1月・3月 (参加人数) 15人 (成果) 単位町内会・自治会からの要望により実施し、交通安全対策が実施されました。 (評価) 反射板等により夜道での交通事故防止に寄与しました。 (今後に向けて) 今年度から新たに取り組んだ事業ですが、引き続き各町内会・自治会へ補助制度を周知しながら、要望を把握し対応していきます。

事業名	ホタルが飛び交うふるさと吉敷
事業費	142,011円(交付金89,656円)
事業概要	(実施内容) 学校、行政、地域との連携により、5月には河川清掃、6月にはホタル採取を行い、9月には小学生のホタルに関するポスター・標語作品の表彰とホタル飼育発表などの式典と、3ヶ月間小学校で飼育したホタルの放流を行いました。 (実施時期) 5月～9月 (参加人数) 700人 (成果) 毎年の活動によりたくさんのホタルが飛び交っています。来年度も、ふるさとの川にたくさんのホタルの乱舞が期待できます。 (評価) 地域は学校・子ども・ホタルのために参加し、学校は地域づくりの一翼を担うため開かれた学校を目指し、子どもたちは環境意識を高め、それぞれがふるさとへの愛着と命の尊さを学ぶことができ、改めて有意義な事業だと考えています。 (今後に向けて) 引き続き、小学校との連携を強化し、美しい環境づくりを目指します。

(6) 地域個性創出

事業名	コミュニティ活性化事業
事業費	711,557円(交付金534,452円)
事業概要	(実施内容) 夏と秋のまつりの開催 (実施時期) 夏祭り8/13、ふるさとまつり11/13 (参加人数) 延べ3,000人 (成果) 新たな実行委員も2年目となり、新旧委員の役割分担もスムーズに移行されつつあり、円滑な運営をすることができました。企画、準備、円滑な運営について役割分担等を実行委員会と調整して臨みました。新しいアイデアも次々に出ており、吉敷のまつりに新しい風を入れることができました。 (評価) 新たな企画により、多くの参加者とのふれあい、交流が図られるとともに、新しい実行委員を中心とした運営を進めるための基盤づくりが図られました。 (今後に向けて) 新たな委員による実行委員会を継続するため、事務局との役割分担等を検討するとともに、楽しく関われる会にするには委員同士の交流が必要です。

事業名	ふるさと伝承事業
事業費	854,000円(交付金854,000円)
事業概要	(実施内容) 地域づくり協議会が設置した特別委員会「ふるさと文化振興委員会」により、地域散策ガイドブック「吉敷さんぽ」を作成しました。また、引き続き「古文書入門講座」を開催しました。 (実施時期) 通年 (参加人数) 15人 (成果) ウェブサイトに電子書籍として「吉敷さんぽ」と「四方山話」を掲載しました。 (評価) 吉敷ふるさと文化振興委員会委員の吉敷を愛する気持ちが形となった地域散策ガイドブック「吉敷さんぽ」は、地域内外を問わず大変興味を持たれており、今後、ガイドブックを活用した講座の開催などにも、多くの地域住民の参加が期待されます。 (今後に向けて) ガイドブックの完成により、特別委員会の「ふるさと文化振興委員会」は一定の役割を果たしたことから、今後は新たな推進組織に移行して、ガイドブックを活用した講座等の開催に取り組んでいきます。

事業名	各種団体支援事業①
事業費	541,630円(交付金230,000円)
事業概要	(実施内容) 地区内活動団体への支援事業 (実施時期) 通年 (参加人数) 延べ1,600人 (成果) 地域内で活動する地域づくり協議会に関係する団体へ支援することにより、一体となった事業の推進を図ることができました。 (評価) 活動団体においては、事業の充実が図られ、地域づくり協議会との一体感が持たれたとともに、地域課題の解決に向けた取り組みが活発になりました。 (今後に向けて) 地域課題の解決のため、また、各種団体の円滑な事業運営のため、事業支援を継続することで、一体となって地域づくり事業を進めることが必要です。

事業名	各種団体支援事業②
事業費	880,000円(交付金770,000円)
事業概要	(実施内容) 各対策協議会への支援事業 (実施時期) 通年 (参加人数) 延べ840人 (成果) それぞれの協議会の活動に加え、地域課題の解決のために、地域づくり協議会と一体となった活動へ支援しました。 (評価) それぞれの協議会の活動内容と地域課題の解決に向けた事業の推進を図ることができました。 (今後に向けて) 地域課題の解決のため、また、各種団体の円滑な事業運営のため、事業支援を継続することで、一体となって地域づくり事業を進めることが必要です。

事業名	旧出張所公民館跡地利用
事業費	0円(交付金0円)
事業概要	(実施内容) 平成26年度に開催した「やまぐち車座トーク21」を踏まえ、平成27年度に設置した特別委員会において、引き続き跡地の活用について協議しました。 (実施時期) 通年 (参加人数) 地区住民 (成果) 吉敷地域の玄関口であり、顔でもある跡地の活用について、広く住民の意見を集めるため、昨年度実施したアンケートを取りまとめました。しかしながら、隣接する農協の組織再編が具体的に始まったため、これらを注視しながら進めていくこととなりました。 (評価) 農協の組織再編の動向を見なければならぬため、協議を中断しています。 (今後に向けて) 集約したアンケートや農協の組織再編を注視しながら、協議を進めていきます。

事業名	観劇鑑賞交流事業
事業費	58,918円(交付金58,918円)
事業概要	(実施内容) 子どもステーションとの協賛で、地域住民に肌で感じる距離での観劇鑑賞の機会を提供しました。 (実施時期) 7月 (参加人数) 延べ154人 (成果) 気軽に参加できる観劇鑑賞を地域の中で開催することで、地域住民同士で新たな交流も生まれています。 (評価) 子どもステーションと地域づくり協議会の共催ということで、スタッフ同士の打ち合わせなどを通じて、事業運営のノウハウ等について学ぶ機会となっています。毎年楽しみにしている方もおられ、地域住民同士、さらには演劇側の皆さんとの交流も楽しみました。 (今後に向けて) 地域の中において観劇鑑賞の機会を提供することで、地域住民の交流は生まれていますが、この事業が地域課題の解決になっているかなどの検証も必要です。